

---

演題名 がんの医療現場における機能性食品の現状と課題

氏名 大野智

所属 金沢大学補完代替医療学/東京女子医科大学 IREIIMS

---

近年、患者の治療選択における自己決定意識の高まりに加えインターネットの普及によって個人による健康・医療情報へのアクセスが容易になったことから、我が国において補完代替医療※（Complementary and Alternative Medicine; CAM）の利用者が急速に増加している。

厚生労働省がん研究助成金研究班の調査によると、我が国のがん患者の45%がCAMを利用していることが報告された。また、我が国に特徴的な点としてCAMの利用内容において健康食品などの機能性食品の利用頻度が非常に高い（95%）ことが明らかとなった。つまり、我が国のがんの補完代替医療の利用実態は、キノコ類、プロポリス、漢方、ビタミンなどの機能性食品が主流となっている。そして、患者の多くは、利用している機能性食品に対して、がんの進行抑制、治癒、症状緩和などの効果を期待しているものの、実感を得られている患者は少なく、なかには健康被害に遭っている患者（5%）もいた。

さらに、この調査では、およそ60%の患者が十分な情報を得ることもなく、また主治医に相談することもなく様々な機能性食品を利用していることも明らかとなった。このような現状を踏まえ、医療従事者と患者は、機能性食品の利用について積極的にコミュニケーションを図る必要に迫られている。しかし、医師をはじめとする医療従事者の機能性食品に対する認識・知識不足、無関心などから、病院からの適切な情報提供は殆ど行われていない。そのため、患者やその家族は、正確な情報を得ることなく不安を抱えたまま機能性食品を利用している実態があり、多くの課題が残されている。

今回の市民フォーラムでは、以下のトピックについて概説する。

- ①がん患者はどのような機能性食品を使っているのか？
- ②機能性食品は、本当にがんに効くのか？
- ③がんの医療現場における機能性食品を取り巻く問題点
- ④がん患者が機能性食品を利用するにあたっての注意点
- ⑤金沢大学での取り組みの紹介

※補完代替医療（CAM）の定義

現段階では、通常医療と見なされていない、様々な医学・健康管理システム、施術、生成物質など

（出典：米国国立補完代替医療センター）